

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>大規模紛争が収束に向かう中、避難していた人々の帰還がみられる地域で、給水施設や学校等のインフラ再建を支援し、ハンドポンプ式井戸3基の設置、小学校3校に校舎4棟(計8教室)を建設したことにより、帰還民を含む住民の安全な水へのアクセスが向上し、児童がより良い環境で学ぶ機会を得た。また、本事業地では、以前から帰還している人々(地域住民)、最近になって帰還した人々など、様々な背景を持つ人々が暮らしており、限られた資源や生活インフラを共用し共存するために、住民間の信頼醸成を目的としたワークショップを実施した。さらに、紛争後を見据えて、近い将来に予想される大規模な帰還に向け、個人・コミュニティレベルでのコミュニティを再形成する上での課題・役割について話し合うワークショップを実施したことにより、社会的平和の重要性について理解が深まった。これらの活動は、上位目標である、「紛争被災民が帰還先で生活を再建し、社会が安定して平和が定着する」に寄与した。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 井戸設置支援 対象：リフ・アシャギ郡及びウム・ドレイン郡の帰還地域</p> <p>(A) 井戸3基の新設 リフ・アシャギ郡ケガヘイル、ウム・ドレイン郡ハムラ、クウムにて井戸3基を新設した。講話や寸劇を通してハンドポンプの適切な使用法や衛生について意識付けをする啓発イベントを各1回(×3か所)実施し、各回100名以上が参加した。</p> <p>(B) 井戸管理委員会の設立 井戸を新設した3集落のうち、ケガヘイル及びクウムで住民リーダーを含めた話し合いの上、井戸管理委員会を設立した。なお、クウムにおいては既存の委員会があるため、新規に設立する必要はなかった。同3集落に加え、先行事業で井戸新設・修理等の支援をした集落の井戸管理委員会メンバーを対象に、WES(州水公社傘下の給水事業体)の専門家を講師に招き、5日間の技術研修を実施、計22集落から43名が参加した。また、井戸運営や実際の井戸補修においてそれぞれが経験したことや課題を共有する経験共有ワークショップを開催し、計22集落から36名が参加した。</p> <p>(C) 補修用工具 井戸を新設した3集落の井戸管理委員会に補修用工具を支援した。工具の使用方法については技術研修で理解が高まった。</p> <p>(イ) ウム・ドレイン郡及びハビーラ郡の小学校の校舎増設と備品支援</p> <p>(A) 小学校3校の校舎増設 対象：ウム・ドレイン郡及びハビーラ郡の帰還地域 当初計画においては、リフ・アシャギ郡の帰還地域で2校を選定し、それぞれに2教室棟2棟を建設予定であった。しかし、現地行政による教員の配置などの体制が整備されていないことや軍拠点の移動が進んでいないことから、リフ・アシャギ郡に隣接するウム・ドレイン郡及びハビーラ郡で、帰還民の増加が見られ、校舎の増設のニーズが高い集落での支援に変更した。ウム・ドレイン郡クウムの小学校(男女共学)に2教室棟1棟(計2教室)、ハビーラ郡ハビーラの男子小学校に2教室棟1棟(計2教室)、ハビーラ郡ハビーラの女子小学校に2教室棟2棟(計4教室)を建設した。なお、これらの変更については変更申請にて承認を得ている。</p> <p>(B) 教室の机・いす支援 校舎を建設した小学校に1教室につき12セットの机・いすを支援した(計96セット)。</p> <p>(ウ) 信頼醸成ワークショップ</p>

	<p>(A) 帰還民と地域住民の信頼醸成ワークショップ 対象：リフ・アシャギ郡及びウム・ドレイン郡 井戸を新設した3集落は、以前から帰還している人々（地域住民）、反政府地域からの避難民、及び最近になって帰還した人々など、様々な背景を持つ人々が混在しているため、安定した社会の構築に向けて互いの信頼を醸成するためのワークショップを実施し、共生する上での問題や、コミュニティでできる取り組みなどについて話し合った。ハムラでは33名、クルムでは207名、ケガヘイルでは53名がそれぞれ参加した。</p> <p>(B) 避難民向けコミュニティ再生ワークショップ 対象：リフ・アシャギ郡、ウム・ドレイン郡、ブラム郡からの避難民コミュニティ カドグリの避難民地区のリーダーを対象としたワークショップを実施。計81名が参加し、紛争終結後に解決すべき問題（土地及び所有物の帰属・使用、婚姻関係等）について意見交換がなされ、過去の解決方法や事例などが共有された。また、紛争後の地域社会の安定に向けて住民同士が話し合うワークショップを6か所で開催し、計534名が参加した</p>											
(3) 達成された成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="523 763 831 801">期待される成果</th> <th data-bbox="831 763 1134 801">指標</th> <th data-bbox="1134 763 1493 801">達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="523 801 831 1563">近隣住民が安全な生活用水にアクセスできるようになる</td> <td data-bbox="831 801 1134 1563">新設された井戸が1基につき1日約50世帯が利用する（実地調査）</td> <td data-bbox="1134 801 1493 1563"> <ul style="list-style-type: none"> ・新設された井戸は1日延べ約80世帯以上が利用している ・井戸補修の技術研修には22集落から計43名が参加し、経験共有ワークショップには計22集落から計36名が参加した。研修・ワークショップに参加した集落の半数以上で、住民から集めた分担金でスペアパーツが購入されていることを確認した。また参加集落にある井戸総本数の70%以上が常時稼働しており、「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち「目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」に寄与すると言える。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1563 831 2092">より多くの帰還民児童が適切な環境で教育を受けることができる</td> <td data-bbox="831 1563 1134 2092">対象となる2校で計400人の児童が増加する（各校の児童登録状況から確認）</td> <td data-bbox="1134 1563 1493 2092">対象3校で計8教室（50人/教室）が増加した。ハビーラ女子学校では1,070人から1,081人に、ハビーラ男子学校では851人から860人、クルム小学校では97人から129人に児童数が増加した。児童数の増加は限定的であるが、それまで屋外もしくは屋根だけの東屋で授業を受けていた約400人の児童が標準の校舎で学ぶ機会を得た。これにより、「持続可能な開発目</td> </tr> </tbody> </table>	期待される成果	指標	達成度	近隣住民が安全な生活用水にアクセスできるようになる	新設された井戸が1基につき1日約50世帯が利用する（実地調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・新設された井戸は1日延べ約80世帯以上が利用している ・井戸補修の技術研修には22集落から計43名が参加し、経験共有ワークショップには計22集落から計36名が参加した。研修・ワークショップに参加した集落の半数以上で、住民から集めた分担金でスペアパーツが購入されていることを確認した。また参加集落にある井戸総本数の70%以上が常時稼働しており、「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち「目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」に寄与すると言える。 	より多くの帰還民児童が適切な環境で教育を受けることができる	対象となる2校で計400人の児童が増加する（各校の児童登録状況から確認）	対象3校で計8教室（50人/教室）が増加した。ハビーラ女子学校では1,070人から1,081人に、ハビーラ男子学校では851人から860人、クルム小学校では97人から129人に児童数が増加した。児童数の増加は限定的であるが、それまで屋外もしくは屋根だけの東屋で授業を受けていた約400人の児童が標準の校舎で学ぶ機会を得た。これにより、「持続可能な開発目		
期待される成果	指標	達成度										
近隣住民が安全な生活用水にアクセスできるようになる	新設された井戸が1基につき1日約50世帯が利用する（実地調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・新設された井戸は1日延べ約80世帯以上が利用している ・井戸補修の技術研修には22集落から計43名が参加し、経験共有ワークショップには計22集落から計36名が参加した。研修・ワークショップに参加した集落の半数以上で、住民から集めた分担金でスペアパーツが購入されていることを確認した。また参加集落にある井戸総本数の70%以上が常時稼働しており、「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち「目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」に寄与すると言える。 										
より多くの帰還民児童が適切な環境で教育を受けることができる	対象となる2校で計400人の児童が増加する（各校の児童登録状況から確認）	対象3校で計8教室（50人/教室）が増加した。ハビーラ女子学校では1,070人から1,081人に、ハビーラ男子学校では851人から860人、クルム小学校では97人から129人に児童数が増加した。児童数の増加は限定的であるが、それまで屋外もしくは屋根だけの東屋で授業を受けていた約400人の児童が標準の校舎で学ぶ機会を得た。これにより、「持続可能な開発目										

	<p>帰還民と地域住民が限られた資源や生活インフラを共用しながら信頼関係を構築し、コミュニティの再形成が進む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼醸成ワークショップ及び避難民コミュニティ対象ワークショップに30名以上が参加する。 ・地域住民、帰還民それぞれのグループの世帯合計数に対して90%以上が再建した井戸・学校を利用するようになる（対象集落で住民リーダーや住民からの聞き取りにより確認） 	<p>標(SDGs)」のうち「目標4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼醸成ワークショップには各回30名以上が参加した。避難民リーダーとのミーティングには2か所で計81名が参加した。 ・ハムラ、ケガヘイルでは、新設した井戸が集落で唯一の水源であり、100%の住民が利用している。またクルムでは、90%以上の世帯が、本事業で支援した学校に子どもを通わせている他、部族が異なる近隣の集落からも就学している。こうした成果から、「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち「目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する」に貢献したと言える。
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 井戸設置 井戸の管理は、井戸管理委員会を設置してメンバーへの研修、工具の支援を実施したことにより、住民による継続的な維持管理が期待される。また住民に対しては、正しい井戸の利用方法や、住民全体で利用環境を整えることの重要性について啓発したことにより、自分たちで維持していく意識が芽生えた。実際にケガヘイルでは、住民により井戸の周りに木材と植物を利用して頑丈な柵が建設された。</p> <p>(イ) 小学校舎増設 小学校の運営及び施設・備品の維持・管理については、管轄する郡役場の責任について引き渡し書類に明記し、引渡し時に学校、PTA及び生徒に対して施設・備品の取り扱い方法及び修繕の責任について説明し、理解を得た。</p> <p>(ウ) 信頼醸成 避難民リーダーや住民とのワークショップでは、紛争後の課題や解決方法が話し合われた他、反政府支配地域にいるリーダー・住民とのコミュニケーションが促された。これを契機として、共生に向けた対話に繋がることが期待される。</p>		